

～未来へつなぐ 住みよい興田～

興田地区振興会だより



No.69 令和3年7月26日
連絡先 興田市民センター内
振興会事務局 74-2201

福祉講演会

心のおくりびと 人の優しさを見つめ直す機会に



優しく語りかける口調の笹原氏。

7月3日、大東バレーボール記念館を会場に興田地区福祉活動推進協議会と共催で福祉講演会を実施しました。だいたいメールなど各種メディアを駆使して周知した為、コロナ禍ですが地域内外から約100名が聴講に訪れ、中学生の参加もありました。

講師に復元納棺師の笹原留似子氏（北上市）をお招きし、「震災で見た命・そして家族の絆」と題して、ご講演を頂きました。

笹原氏は幼少の頃から神社に巫女として奉職。その後は病院勤務を経て遺族の希望を多く取り入れる形の「参加型納棺」を立ち上げ、同時に独学で復元納棺師となった方です。復元納棺師とは、事故や

災害などで傷ついた遺体を、生前の姿に重ね合わせて復元するという全国でも数少ない専門職のこと。遺族と亡くなられた人との思い出をつなぎ、心の絆をとりもどすための仕事です。

東日本大震災ではボランティアとして被災地に入り、生後間もない赤ちゃんから90歳を越える高齢者など約300人を5か月以上かけて見送るとともに、主に安置所において遺族の心へ寄り添った活動を行ってきました。

講演では自ら書き溜めた絵日記から一部を紹介。「人は2度死ぬ。1度目は生命活動が終わった時で、2度目は人々の記憶から消え去ってしまった時である。2度目の死を迎えないように、人は悲しみと後悔をするのではないか。」と説き、「人はいつ死ぬか分からないので、後悔が無いように感謝の気持ちをもって生きてほしい。」と強く訴えました。



三途の川を見た者同士による貴重な対談。

最後に、自身が手術中に三途の川を見た経験を話され、同様に見た経験がある参加者と対談をするなど、会場と一体となった貴重な講演をして頂きました。

聴講に訪れた興田中1年の生徒さんから、「震災当時は保育園児だったのであまり覚えていませんが、数か月経って傷んだ遺体を触れることができるなんて、私にはできないのですごいと思った。」「教科書には載っていない話が聞けて良かった。」と感想を話してくれました。

史跡巡り健康づくりウォーキング

6月25日に「史跡巡り健康づくりウォーキング」(第2回 築館村コース)を実施し、今回も好天にも恵まれ、16名が参加しました。

築館村とは聞き慣れない名前ですが、今の八日町・前田野・大住・向山辺りとされ、明治8年に天狗田村と合併して沖田村に、さらに明治22年に鳥海・中川・沖田の3村が合併して現在に至り、今は存在しない古い地名です。下構の愛宕神社辺りは、その昔「築館(月館・構館)」と呼ばれた城館跡でした。

一行は興田の偉人「小山竹斎」にゆかりのある松峰山照覚院・小山竹斎頌徳碑・芭蕉翁句碑などを訪ね、六地藏(高屋敷)から折り返して大東開発センターに戻ってきました。

約5kmのコースを約2時間20分かかけ、1万歩にわずかに届きませんでした。皆清々しい汗をかき、充実感と共に解散しました。



第2回 理事会から

第一四半期(4～6月)の状況を説明

7月16日に第2回理事会を開催しました。協議内容は下記のとおりです。

- ① 専門部会の活動経過及び活動予定について
- ② 興田市民センター運営状況について
- ③ 予算執行状況について
- ④ 興田地域づくり計画の見直しについて

- ①② 第一四半期(4～6月)の専門部会と市民センターの活動状況と、今後に予定されている事業について報告しました。興田市民センターの運営状況は、指定管理化に伴い、今回から報告するものです。
- ③ 第一四半期のひとまち応援金並びに自己資金会計及び市民センター会計について報告しました。ひとまち応援金については、今年度総会以後に提出した令和2年度補助金清算申請書に市から誤りを指摘され、これに伴って本年度事業費にも影響が出たこと

を説明し、陳謝しました。

- ④ 現在、評価シートに基づき、専門部会内で全ての事業に対して自己評価を行っている作業中である旨を報告しました。



その他、市民センター指定管理化に付随する「災害時における避難場所などの運営の協力に関する協定」、法定労働時間(1日8時間・1週間で40時間)を超えて勤務(残業)を命じる場合も生じるために「労働基準法第36条に基づく労使協定」(いわゆる三六協定)をそれぞれ締結した旨を報告。

また、8月10日から8月31日まで大東開発センター駐車場の舗装工事が行われることも報告しました。

不定期連載

減らそう塩分！伸ばそう寿命！

健康福祉部会では、食生活改善啓発事業として主に減塩をテーマとする連載を次号から開始します。塩分の摂り過ぎは高血圧を招き、脳卒中などにつながっていることは知っていても、どこをどうやって変えたら良いのか分からない方も多いと思います。

紙面では、ちょっとした工夫で減塩できるようなミニ情報をお伝えしていきます。



この食品の塩分の多い順に並べてみて！

(答えはP4)



①梅干し



②たくあん漬



③らっきょう甘酢漬

ひまわりの里をめざして ~ひまわりで興田を明るく元気に！~

5月29日に種蒔きをしましたが、少雨やネキリ虫の被害などにより全滅しました。地区内でも同様の被害が報告されています。直根性のひまわりは根が痛むのを嫌う為に移植は避けてきましたが、やむを得ず移植する方法に切り替え、苗の育成を急遽はじめることに。

ポットに種を蒔いて16日後の6月10日に苗約840本を移植し、順調に成長しています。



青々と大きく成長したポット苗。本葉4~5枚出る前までに植え替えます。



ボランティアの方々のお手伝いを頂いて移植。

だいとうメール

24時間365日受信登録受付中！

登録・受信無料！(バケット料金は個人負担)



だいとうメールは、大東地域内のイベントなど、ふるさとの有益な情報満載です。大東地域外に住んでいる方でも受信登録できます。

受信登録方法はとっても簡単。右の二次元コードをカメラで読み取るか、「apply@daito-mail.com」を直接入力し、空メール(タイトルも本文も無し)を送信するだけ！

登録手順に自信がない方は、携帯電話販売店またはだいとうメール運営協議会事務局(0191-75-2229)にお問い合わせください。

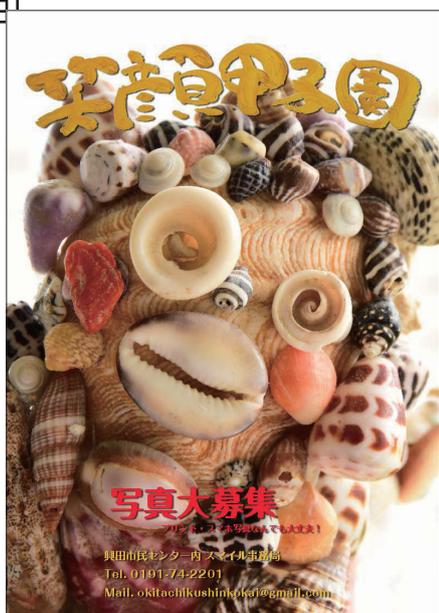
統計情報	世帯数 (戸)	男性 (人)	女性 (人)	合計 (人)
令和3年6月末	1,176	1,448	1,489	2,937
前月比	-1	0	-1	-1
前年同月比	-11	-42	-38	-80

写真展覧会

第一回「笑顔甲子園」

一関市興田地区の笑顔をテーマとして、「無審査」「無褒章」を基本骨子に写真展覧会を開催します。家族や友人など思いっきりの笑顔をお寄せください。

応募作品は原則すべて展示します。皆さんの笑顔の花を咲かせましょう！



募集要領

応募・展示期間：2021年7月15日～2022年3月31日

応募資格：どなたでも

応募方法：①写真プリント、デジカメ、スマホデータ OK

② Instagram アカウントをフォローする。(@okitachikushinkokai)

ハッシュタグ「#興田笑顔甲子園」を使って写真を投稿する。

※展示について被写体の同意を得てご応募ください。

※作品は返却いたしません。

送り先・問合せ先：興田市民センター内スマイル事務局

岩手県一関市大東町鳥海字細田 19-2

メール okitachikushinkokai@gmail.com

電話 0191-74-2201

(受付時間：平日 8:30～17:15 土日祝・年末年始は休業)

展示会場：大東開発センター（一関市興田市民センター）

展示時間：8:30～22:00（ただし、土・日・祝日、12/29～1/3は休館）

主催：興田地区振興会・一関市興田市民センター

新事業

クロモジ香る特産品を！

今年度から取り組んでいるクロモジは興田地区にも広く自生してしましますが、馴染みが無い方も多いようです。そこで、大東開発センターの庭園に樹齢4年程度のクロモジ2本を移植し、簡易ながら解説看板も設置しましたので、お立ち寄りの際はご覧ください。

また、養命酒製造(株)が主宰する「クロモジ研究会」に入会し、栽培方法や活用法などの情報収集をしており、会が発行する広報誌は開発センターロビーにて閲覧できます。



幹が細くて分かりにくい写真ですが、中央と左の2本を植えました。

(P3 4月の窓のそと : ②①)